

公式記録

平成21年度兵庫県高等学校サッカー新人大会

準決勝 【37】

主審
署名

小屋 幸栄

日時 2010年2月11日(木) 11:00 キックオフ 会場 ア斯巴五色メイングラウンド

天候 雨 風 弱風 ピッチ (芝)・クレー 状態 (良好)・不良・泥沼 試合形式 70分/延長分 PK戦有

マフドミツヨチ 辺見 康裕 会場主任 神原 吾郎 記録 岡本進司 / 赤松正人 観衆 200人

主審 小屋 幸栄 副審1 鷓野 敬二郎 副審2 横田 滋 第4の審判員 池本 良彦

kick off				4	前半	0	kick off				
科学技術高校				先	0	後半	0	東播工業高校			
				4	延前		0				
					延後						
背番号					PK戦		背番号				
○×							○×				

交代	シュート				得点	選手名 (学年)		番号	位置		番号	選手名 (学年)		得点	シュート				交代
	No.	OUT時間	延後	延前		後半	前半		前半	後半		延前	延後		OUT時間	No.			
						倉本 仁志	1年	1	GK	GK	1	南 翔	2年						
	54分					江本 準基	2年	2	DF	DF	2	矢崎 翼	2年						
	HT分					田村 和也	2年	4	DF	DF	3	松本 航	1年						
						高松 弘毅	2年	5	DF	DF	4	海木 健	2年						
						姜 亮植	1年	22	DF	DF	5	上内 徹也	2年						
	54分				1	李 龍沫	2年	6	MF	MF	6	林田 光司	2年						
						岩井 航	2年	13	MF	MF	7	高尾 俊貴	2年			1			
	HT分					山口 大輝	2年	15	MF	MF	8	松原 大貴	2年						62分
						李 昌寿	1年	19	MF	MF	9	星山 仁洋	1年						
						邨上 和幸	2年	10	FW	FW	10	小原 拓也	2年				2		
						深澤 卓也	2年	11	FW	FW	11	福田 悠介	2年			1			
						山口 将司	2年	12	GK	GK	12	吉田 大輝	1年						
	2分					木梨 淳史	2年	3	FW	DF	13	松下 瑞希	1年						
						津田 慎士	2年	9	FW	DF	14	横井 華輝	2年						
	4分					和定 健太	2年	14	DF	MF	15	横田 皓士	1年						
						沼野 晃寛	2年	16	MF	MF	16	佐藤 博哉	2年						
						吉井 優真	1年	20	DF	MF	17	福江 大暉	1年						
	15分					八木 大将	1年	21	FW	MF	18	小川 宏人	1年						8分
						田中 秀治	1年	23	MF	DF	20	宮本 康平	2年						
	6分					松本 卓朗	1年	24	MF	MF	22	岩本 勇太	1年						

時間	警・退	No.	氏名	事由	監督				時間	警・退	No.	氏名	事由							
					合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計	34分	警告	9	星山 仁洋	繰り返
					10			2	8	シュート	1	3			4	48分	警告	4	海木 健	遅延
					13			11	2	GK	3	6			9					
					2			1	1	CK	0	1			1					
					16			6	10	直接FK	7	5			12					
					2			0	2	間接FK	1	0			1					
					1			0	1	(わざと)	1	0			1					
					0			0	0	PK	0	0			0					

得点経過	時間	チーム	No.	得点者	スコア	[得点経過] 略号例: ドリブル~・ゴロのパス→・浮き球○・混戦×・ヘディングH・シュートS				
		5分	科学技術	11	深澤	1-0	中央FK	①	n	⑩
	18分	科学技術	19	李昌寿	2-0	右⑩	n	中央⑩	H	Sはねかえり⑩S
	25分	科学技術	19	李昌寿	3-0	右⑤	n	中央⑩	~S	
	34分	科学技術	10	邨上	4-0	中央⑬	n	⑩	~S	
	分				-					
	分				-					
	分				-					
	分				-					
	分				-					

戦評者 所属【 伊丹北・御影 】 氏名【 吉田・小林 】

科学技術4-4-2、東播工4-2-3-1のシステムで試合が始まる。科学技術は、FW⑩邨上、⑩深澤を効果的にスペースへ走らせ、攻撃を仕掛ける。一方、東播工はFW⑩星山を起点にし、2列目の3人がスペースに飛び出し、チャンスを掴もうとする。立ち上がり、一進一退の攻防かと思われたが、競り合いの後のこぼれ球への寄せが速い科学技術が、徐々にペースを握り始め、得点する。東播工は、ボールサイドへのプレッシャーが甘く、またカバーリングの遅れより失点を重ねる。後半に入り、前半の硬さのとれた東播工は、DFラインを前に保ち、ゲームを押し気味に進めるが、シュートの精度を欠き決定機をものにできない。前後半を通じて試合巧者に勝る科学技術が勝利を収める。お互いにスリッピーなグラウンド状況もあるのか、個人技のミスが目立つ場面が多く見られたゲームであった。